

第1専門部会 議論シート

検討分野	課題	基本的な方向
<p>1. 都市計画</p> <p>(参考：みらい会議報告書等から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地が郊外への拡大しており、集約的な土地利用が必要 都会的でもありながら緑、自然が残っているまちがよい 郊外の発展も必要 地区により商業施設等の利便性に偏りがある 既存市街地の再開発、未利用地の有効活用を中心に行う 景観を軸とした特徴あるまちづくり わかりやすいまち 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少の現実の中で、そのマイナス面にも正面から光をあてて共通認識に立ち、長期的にみた都市の機能のあり方、方向性を考えていかなければならない コンパクトシティについては概念の共通認識がない 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少を前提としながらもまちづくりに積極性を出していく必要がある これからの帯広の都市計画は、これまでの都市形成過程を踏まえ、それにつながるサステナブル(持続可能)なまちづくりの視点が重要である 都市軸と帯広の森を中心とし、緑豊かで住みやすく、誰にとってもわかりやすいまちづくりが必要である <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境問題が世界的に注目されているなかで、帯広の森をもっと育てる必要があり、これを帯広市の特徴としてアピールすべき 高齢化時代を見据え、車社会における公共交通機関のアクセスを整備する必要がある
<p>2. 住宅・住宅地</p> <p>(参考：みらい会議報告書等から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道・帯広らしさが無い 夢のある宅地開発が行われていない 空き地・空き家の増加 ユニバーサルデザインの住環境整備が進んでいる 積極的な宅地開発が必要 住宅を建てやすい環境(地価など)が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 空き地や空き家の利用が促進されていない 農村部の宅地の方向性を明確にする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ニーズにあった宅地、住宅が必要である 帯広らしさや夢があることは必要である。そのためには面的な視点での機能別コンセプトにより集約したエリア区分が必要 帯広ではユニバーサルデザインのまちづくりに取り組まれているが、これはひとつの帯広らしい住宅・住宅地につながる 帯広の森の活用、高齢者が暮らしやすい住環境などは、夢のある宅地につながるものである <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 限りある土地の高度利用が必要である 近郊の持ち家から中心部のマンションへの住み替え促進が必要 ソフト面での取り組みが必要。住民同士のコミュニケーション、個性を活かしあえるまちづくりを進めるべき 安全対策の取り組みもまちに住みたいと思わせる手法の一つ まちにある程度の統一した家並みのデザインが必要
<p>3. 交通網(航空、鉄道、高速道路)</p> <p>(参考：全体会議から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通ネットワークの整備 十勝港の利活用 <p>(参考：みらい会議報告書等から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 流通ネットワークの構築と流通コスト減 航空などの運賃が高い 空港アクセスが悪い 高速道路の札幌圏への延長をプラスと捕らえる 	<ul style="list-style-type: none"> 高速道路のプラス面を導き出す方が明確でない 交通のアクセスがよくない 農村部の通信インフラ普及が遅れている 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道や高速道路のインフラ整備は充実してきており、今後はソフト面での利活用を中心に考えていくべき 高速交通のメリットを充分活用した物流の高速化が重要 <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 帯広の食に対する注目度が上がっている。関西方面とのつながりを深めていく必要がある インターチェンジの利活用の促進が必要 ハブ化をにらんだ空港利活用促進が必要 市全域をカバーする通信網が必要

第1専門部会 議論シート

検討分野	課題	基本的な方向
<p>4. 農林業</p> <p>(参考：全体会議から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低い自給率や消費者の動向を踏まえた北海道・十勝農業の役割とは ・グローバル化の影響が大きい。十勝の農業をどう支えるか ・ばんえい競馬の活用を考えるべき ・畜産大学を拠点とした研究者養成、情報収集と発信を考えるべき <p>(参考：みらい会議報告書から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹産業としての持続的な農業を支えていくことが必要 ・農産物のブランド化、付加価値化と販路拡大を図る ・女性の農業経営への参画、新規就農者や農家 後継者の育成を図る ・時代に即した農村社会の形成が必要 ・安全でおいしい農産物が生産されている ・消費者に対して生産者情報や食の安全性などを発信する 	<p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率が低下している ・農業への新規参入の受け皿が充分でない ・気象変化の農業への影響が予想される ・農業の多面的機能の保全が課題 ・大量生産、大量消費により消費者ニーズへの個別対応ができていない ・地元の消費者が地場の農産物を食べる機会が少なく、良さが理解されていない ・情報発信力が弱い <p>【林業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育てるといふ林業が成り立ちづらい状況にある 	<p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業は、基幹産業として地域がしっかり支えていくことが必要 ・長期を見据えた農業施策、経営が求められる ・地域の自給率を高めていくことが必要 ・十勝の農業から食の安全を考え、地産地消を進めるべき <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物加工、都市農村交流など、農村女性の活動を農業・農村の活性化につなげていくことが必要 ・企業の農業参入の可能性を探っていく必要がある ・これからはグリーンツーリズムやファームインなど消費者との観光での結びつきも求められる ・トレーサビリティなど十勝農畜産物の安全・安心を国民にPRしていくことが必要である ・観光や物産の拠点をつくり、売り込む仕組みづくりが必要 ・帯広畜産大学を拠点とした連携が必要 <p>【林業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で森を守ることが必要 ・林業については、環境がキーワードとなる <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材供給型から付加価値型への転換が求められ、工業との連携が必要となる ・環境の側面から、針葉樹だけでなく広葉樹も必要
<p>5. 工業</p> <p>(参考：全体会議から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致に積極的に取り組むべき <p>(参考：みらい会議報告書から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場の素材を活かした付加価値製品の生産が必要 ・製造業の集積度向上が必要 ・中小企業の技術力向上が必要 ・起業に対する支援が必要 ・マーケティング力の向上が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝は農機の技術は高いが、工業全般では北海道の中でも技術力はまだ低く、技術力格差がある ・産業の支援では、行政は公平性を求められることから限界があり、民間では利害関係が壁となる ・企業は、経営講習会などに参加しても、余裕がないためその成果を出せない 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい取り組みや企業努力、経営感覚が必要 ・産業を振興していくためには、食をキーワードに産業構造を構築していくべき ・差別化によるとかちブランドの確立が必要 <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通の面で行政での仕組みづくりが望まれる ・産業の支援では、独立した第三者機関による一元的管理が必要 ・食品などの地元産業に関連する企業誘致が必要 ・十勝は小麦の産地であり、地元製粉工場があるとよい
<p>6. 商業</p> <p>(参考：みらい会議報告書から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なニーズに応える商店街とすべき ・消費者の利便性の向上を図る必要がある ・経済情報の把握と発信が必要 ・優れた商業者の育成が必要 <p>(参考：市民アンケートから)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある大型商業施設もほしい ・高級ブランドを扱う店もほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズの二極化がある ・大型店や札幌圏に消費が流れる傾向にある 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業と観光の連携が必要 ・商店街に魅力が必要であり、点在しているものをゾーンとして集約し連携を図る必要がある <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営意識の向上を図り、やる気、知恵を出していくことが必要 ・価格、品揃え、選択の広さ、こだわりといったニーズを把握し、それに対応する必要がある

第1専門部会 議論シート

検討分野	課題	基本的な方向
<p>7. 観光</p> <p>(参考：みらい会議報告書から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光資源が少なく、知名度が低いことが課題 地域を挙げた観光戦略（PR，受け入れ体制等）が必要 地域資源の発掘を図り、観光資源を確立することが必要 花火大会、ラリー、スケート、ばん馬などを観光資源として活用する 歴史ある施設や農家などを活かした観光拠点を作る 	<ul style="list-style-type: none"> 観光資源の連携がない 観光をコーディネートする機能が充分にない 	<ul style="list-style-type: none"> 観光と商業、農業との連携が必要 単品での素材を連携させる仕組みを構築し、きめ細かな組み合わせによる体験・滞在型メニューを考えていくべき 情報発信により、地域内のヒトを動かし、地域外からは呼び込むことが必要 ゲスト、ホスト、そしてコーディネートするブローカーが必要 <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光資源を連携することにより、十勝・帯広に訪れた人にうまく回ってもらえるような工夫が必要であり、そのためには交通アクセスやコーディネート機能が大切 素材を活用するノウハウを高めていくことが必要 自主自立の取り組みに対して行政の支援が必要 高速道路を活かし、札幌圏から呼び込むことが必要 東アジアからの観光客を呼び込む可能性がある ばんえい競馬については、全国で十勝にしかない文化、農業の歴史のひとつとして観光資源として活用していくべきであり、裾野を広げるための受け入れ態勢が必要 パークゴルフなど安くて楽しめる素材もあり、それを観光につなげるPRを進める必要
<p>8. 労働</p> <p>(参考：みらい会議報告書から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な雇用の受け皿が必要 若年層の就労意欲を向上させることが必要 女性の就労環境を向上させることが必要 高い技術・能力を備えた人材育成が必要 人材を確保するためには給与水準の向上も必要 企業誘致や優れた人材を呼び込むことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 労働人口のあり方、捉え方を見直していく必要がある 雇用の場が確保されていない 雇用の受け皿となる企業に元気がない 企業等の市外流出がある 労働者のスキルアップ、待遇改善が課題 <p>現在、議事録整理中</p>	<ul style="list-style-type: none"> 女性や高齢者がそれぞれもつ強みを活かし、能力を発揮できるしくみづくりが必要 雇用の場の創出には産業の育成が必要 帯広の特性を活かした新たな雇用の創出する必要がある。 労働力確保には、住みやすい環境が整っていることが必要 <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働単価の安さを売りに、中心市街地の空きビルを活用した、エリアフリー業務（電話オペレーションセンターなど）を誘致する 出産、育児がしやすい環境をつくり、女性が仕事と子育てを両立しながら、社会で活躍できることが必要 家族の介護に対する雇用上の支援制度の充実が必要 <p>現在、議事録整理中</p>

第1専門部会 議論シート

検討分野	課題	基本的な方向
<p>9 . 産業連携</p> <p>(参考：全体会議から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビートかす等を活用したバイオエタノールへの取り組み <p>(参考：みらい会議報告書から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場の素材を活かした付加価値製品の生産(再掲) <p>(市民・企業アンケート調査より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同業、異業種の交流を日常的に行われることが必要 ・食の素材を活用した産業の振興 ・十勝の気候や土地を活かしたベンチャービジネスの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの産業連携にはマーケティングの視点が欠けている ・異業種交流や人材・ベンチャービジネス育成の結果が見えていない ・研究開発機能が十分に活用されていない ・BDF(バイオディーゼル燃料)の活用では、原料となる廃てんぷら油の確保、回収コストなどが課題 <p>現在、議事録整理中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業種を超えた連携をはかり、情報発信を促進していくことが必要 ・様々な産業、業種の有形無形の連携により情報交換をし、知的連携を図ることが必要 ・新たな産業創出のためのリーダーづくりなど、地域全体で盛り上げて長い目で仕組みをつくっていくことが必要 ・それぞれが持つ知識、経験、資源や技術の連携が重要 ・ニーズに合わせたシーズの活用が必要 <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業や食に関連する加工や開発を進めるとともに、ブランド化してPRしていくことが必要 ・十勝はバイオエタノールの可能性があり、残渣などの有効活用を図り、産業廃棄物の減量とエネルギー化を進めていくべき ・連携においては財団のような第三者機関のコーディネート機能が必要 ・産業連携を進める上で、帯広畜産大学や産業振興センター、食品加工技術センターの活用促進が必要 ・情報提供のためには人材の育成が必要であり、行政がヒト、モノ、カネの情報を集めて分析し、それを発信するシステムを作る必要がある ・情報通信ネットワークを活用した異業種間連携を図る必要がある ・産業連携を進めるためには、企業の意識と努力が必要 ・産業連携を進めるためには地域全体で支えていく姿勢が必要 <p>現在、議事録整理中</p>
<p>10 . 中心市街地活性</p> <p>(参考：みらい会議報告書から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地に賑わいが無い ・中心市街地の役割と機能の明確化にすべき ・人と物が出会う環境(喜び、驚き)の創出する ・来訪者のニーズを満足するサービスの提供 ・中心市街地への交通アクセスをよくする ・市民参加のまちづくりを促進する ・空き店舗対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地に魅力が薄れている ・中心市街地活性については、個人レベルの利害関係もあり、共通認識に立っていない ・平日と休日では人が集まるための前提条件が異なる ・中心市街地に消費者が買いたくなるもの足りない ・業種の偏りがある ・ホコテンなどのイベントでは人が多く集まっているが、広小路までは人が流れておらず、イベント終了後の人の滞留がない ・中心市街地では、車社会が進みバス利用が少なくなってきた ・まちなかにくつろげる場所がない。 ・高齢者などが歩きにくい <p>現在、議事録整理中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の核として中心市街地の活性は必要 ・人々が行って、くつろぎ、楽しめるような魅力づくりが必要 ・起点から人の流れを作っていくべき ・コミュニケーションの場が必要であり、交通と商業の連携も必要 ・高齢者の住宅や集いの場所など、高齢化を見据えた中心市街地活性の手法を考えるべき <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の店が連携し、商店街単位での品揃えなどの魅力をPRしていく必要がある ・交通アクセス、コミュニケーション機能などを強化していく必要がある ・中心街の空き店舗対策が必要 ・高齢者の能力を活用して中心市街地の活性化を図ることが必要 ・人を集めるにはターゲットを絞ることも必要 ・点の存在を線、面に展開し、食をテーマとした飲食、物販、憩いの場を創出することが必要 ・特徴のある取り組みにより人を集める工夫が必要 ・商業経営者の売る努力が不可欠 <p>現在、議事録整理中</p>

第1専門部会 議論シート

検討分野	課題	基本的な方向
<p>11．国内・国際交流</p> <p>(参考：全体会議から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業などの技術面からの国際的な交流 ・幅広い視点でのJICAの活用 <p>(参考：みらい会議報告書から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通ネットワークの確立 ・他地域との連携が必要 ・国際性のある地域づくり ・十勝地域全体で共通課題を検討する必要がある ・交流人口が増えていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・JICAの活動が周知されていない ・ ・ <p style="text-align: center;">現在、議事録整理中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光、産業につながる交流を展開する必要がある ・今後も発展が予想される東アジアとの技術や人材の交流を進めていく必要がある ・国内では、関西のマーケットにねらいをつけることが必要 ・国際的な文化交流が必要 <p>(具体的な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大企業の従業員を対象に長期滞在型ツアーを企画してはどうか ・松崎町などとの子供の交流を人材育成面で成果をあげていくべき ・JICAを活用した、市民レベルも含めた国際交流を図る必要がある <p style="text-align: center;">現在、議事録整理中</p>

第 1・2・3 専門部会 共通議論シート

検討分野	課題	基本的な方向性
<p>共 - 1 . 市民協働・地域コミュニティ</p> <p>(参考：市民アンケートから)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりのため「積極的に活動したい」、「機会があれば活動したい」と考えている人は半数以上 <p>(参考：企業アンケートから)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何らかの社会貢献活動に取り組みたいと考えている企業は9割以上で特にリサイクル・省エネ活動や地域活動などの社会貢献活動に取り組みたいという企業が多い <p>(参考：みらい会議での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報や活躍の場を効果的に提供する仕組みづくりが必要 ・企業の協働機会を増やすことが必要。 ・小さな市民活動にも目を配り団体や人を育てることが必要 ・地域のコミュニケーションや世代間の交流が不足 ・若い人が地域活動に参加できる環境づくりが必要 <p>(参考：これまでの審議会での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱物に頼らず市民の協働やアイデアでまちづくりを進めるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
<p>共 - 2 . 自治体経営</p> <p>(参考：みらい会議での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の健全な行財政運営が必要 ・税金の使途をもっと市民が知ることが必要 <p>(参考：これまでの審議会での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハコモノを有効活用していく視点が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
<p>共 - 3 . 広域連携</p> <p>(参考：みらい会議での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十勝圏全体で課題に対応することが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
<p>共 - 4 . 男女共同参画</p> <p>(参考：これまでの審議会での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性が社会に出て行かないとこれからはまちを支えていけなくなる ・女性の能力を引き出し発揮できるまちであるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
<p>共 - 5 . その他(ユニバーサルデザイン、平和、人権、アイヌの人たちなど)</p>		